

かわさき区の宝物シート

宝物No.

15-3

いつくしま こせんきょう からのせんろぐんのけいかん

いつくしま跨線橋からの線路群の景観

エリア	大師地区	シーズン	通年
	小島新田	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区小島町2～3丁目
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	京急大師線小島新田駅よりすぐ



基礎情報

■いつくしま跨線橋は、かつて川崎の工場地帯を支え、経済産業発展の原動力となった貨物列車の線路群を一度に見ることができる、工業都市かわさきを象徴する貴重な鉄道風景である。

■跨線橋の南側には、東海道本線貨物支線と神奈川臨海鉄道の浮島線・千鳥線・水江線が乗り入れる川崎貨物駅がある。4路線はいずれも貨物線であり、現在もコンテナ貨物などを取り扱う貨物列車が運行している。そのため、多くの鉄道ファンが写真撮影に訪れるポイントとなっているとともに、様々な映画やドラマのロケ地としても有名である。

由来・エピソード

■日本に初めて鉄道が開業したのは明治5年(1872)である。その後、鉄道貨物輸送が始まると鉄道網が全国に拡大し、旅客・貨物両方において鉄道輸送は陸上輸送の主流となった。

■鉄道の貨物輸送は、明治39年(1906)の鉄道国有化に伴う貨物駅の増加に端を発し、戦時中の軍需の増加、さらには太平洋戦争後における復興期の物流の増加へと、時代を経るごとに拡大し、輸送量は高度経済成長期の1970年代にピークを迎えた。

■鉄道貨物は鉄道の開業以来、貨物を操車場で組替えながら貨車を継送し、各駅でも連結・離脱させるヤード輸送方式が主流であった。しかしこの方式では貨物到着までに日数を要するといった課題があり、1960年代以降の高速道路網や高規格の国道の整備に伴って、トラックによる輸送時間が飛躍的に短縮されると、徐々に鉄道貨物は衰退していった。

■このような背景を受けて、日本国有鉄道が貨物輸送体系を抜本的に見直した結果、ヤード輸送方式は全廃となり、それ以降はコンテナ貨車及び石油、化成品、セメント類などの物資適合貨車を主体とした拠点間直行輸送のみとなった。また、同時に数多くの貨物取り扱い駅が廃止され、多くの専用線も使命を終えた。現在では、神奈川臨海鉄道4路線のうち水江線は線路保守が主目的の1両運転の機関車(単機)の1往復のみしか運行しておらず、その他は乗務員のハンドルのための列車が不定期に運転されているのみである。

補足・その他

関連シート

(28-1) 港湾施設(埋立地)